

シェアサイクルで地域格差を解消 ～学生の可能性と青春を彩る新たな移動サービス～

取り組み主体：特定非営利活動Colors

専用チェーンとアプリケーションを使って学生同士が無料で自転車を貸し借りできるサービスの提供。【貸す側】は各駅に設置されたチェーンを自分の自転車に取り付け、【借りる側】がそれを借りることができる。また、学生と行政・企業、学生同士がフラットに繋がれる場所をオンライン上で提供し、世代間での交流を生み出す。

課題 や現状

- 徳島県は車社会として知られているが、公共交通機関である汽車やバスの運行本数が少なく、路線も限られているため、移動手段が制約されている。特に、自動車免許を持たない学生にとっては深刻な問題である。
- 仮に商業施設の最寄り駅まで到着できたとしても、その後の移動手段がなく、目的地までのアクセスが困難
- 徳島県の高中生207人を対象に「目的地へ行く交通手段がなくて困った経験があるか」というアンケートを実施したところ、約88.4%が「ある」と回答した

解決策や アイデア

- 自転車をPedalShareアプリで貸し出し、最寄り駅付近に用事がある学生が無料で利用できるサービスを提供
- 貸出しに協力したユーザーにはPedalShareポイントを付与し、割引クーポンやAmazonギフト券と交換可能
- 利用者はアンケート回答またはアプリへの投稿を条件に無料で利用可能
- 貸出中は各駅に設置されたPedalShare専用チェーンでロックし、アプリに情報登録して管理
- 収益はアプリ内コミュニティ機能への広告掲載や企業・行政からのアンケート受託業務で確保

取り組み状況 や成果

- 駅から目的地までの移動手段がなく諦めていた場所にも自転車で行けるようになり、学生の活動範囲拡大と可能性の拡充を実現
- 学生の移動利便性向上による経済効果と地域活性化を促進
- 若者にとって住みやすい街づくりを通じ、少子高齢化問題の解決に寄与
- 他社シェアサイクルサービスと異なり、クレジットカード登録不要で無料利用可能なため、クレジットカードを持たない学生でも気軽に利用可能
- 自転車利用による駅周辺の利便性向上で鉄道利用者が増加し、JRの赤字運行改善に貢献

ポイント 専用アプリ、チェーンを用いて使っていない間に貸す、借りる

徳島県では、**最寄り駅まで自転車**で行き、そこから**電車で学校の最寄り駅まで**通う学生が多い。他の地域から来た学生が、駅に置かれた自転車を利用できるようにすることで、交通手段の不足による移動の制限を解消できる。使っていない自転車を貸したい学生と、移動手段を必要とする学生をアプリでマッチングする。



〈簡単なシステムの説明〉

- ①貸し出す側は自分のチェーンの代わりに各駅に置いてあるPedalShareチェーンを用いて施錠。アプリに貸し出す時間や自分の自転車の特徴などを入力。
- ②借りる側はアプリで借りられる自転車を確認。自分の条件に合う自転車を選択して画面操作で開錠。返却までに必ずアンケート回答かコミュニティ機能への投稿をする。
- ③時間内に借りた場所に自転車を返却。



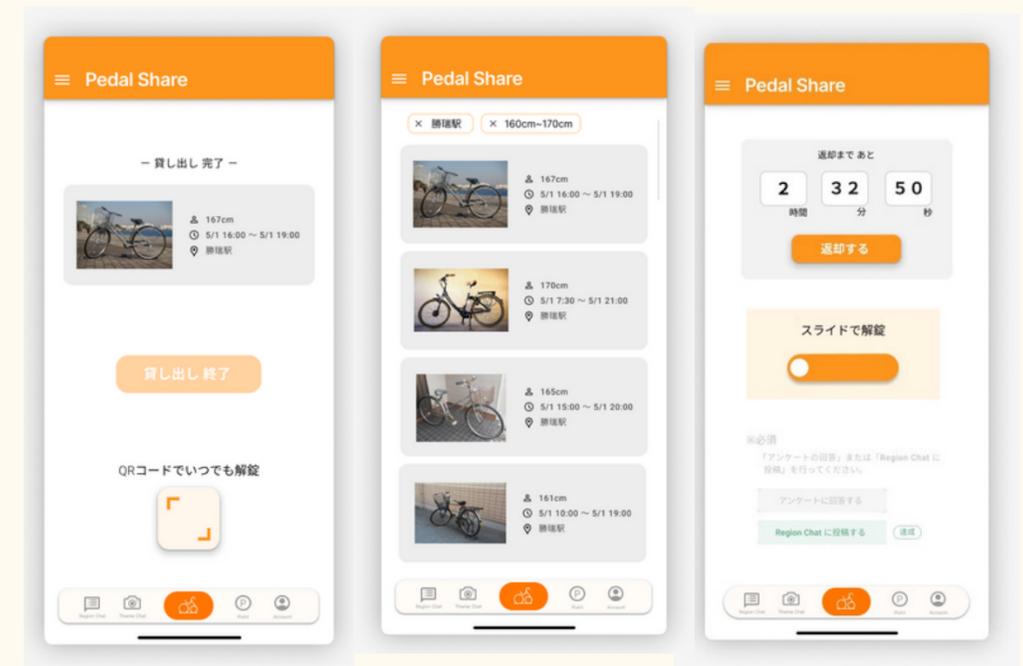
〈PedalShareの他サービスと比較した強み〉

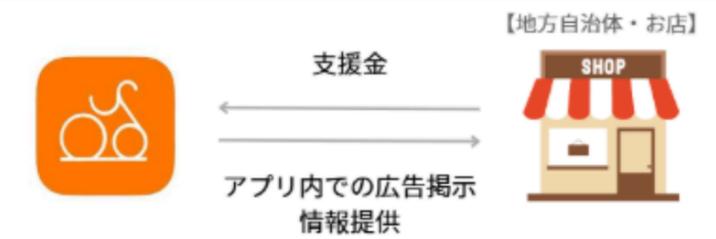
一般のレンタサイクルでは自転車を置く場所や管理費、人件費が多くかかってしまい、自転車貸し借りサービスだけでは運営が回らない課題

→普段使っている自転車を貸し合うことでそのコストを削減。持続可能な仕組みに

安だけでなく無料で貸し借りできる

→「無料」効果で学生の移動範囲を広げることにつながり、過疎化した地域への若者の出入りを増やし、県全体の活性化につながる





ポイント **アプリ上で気軽につながり、大人と子どもの情報をシェア**

近年、学生と行政が意見交換するイベントは増加傾向にあるが、やはりそこに訪れる学生は限定されている。どんな環境の学生も気軽に普段感じたことや思ったことをオンライン上で発信し、簡単につながる仕組みは、以下のような効果が期待できる。



1. 参加のハードルを下げる

- オンラインなら時間や場所の制約がなく、**多様な学生**が参加しやすくなる。

2. 匿名性やフィードバックの仕組みを活用

- 匿名での発信が可能であれば、意見を言いやすくなり、率直な声が集まりやすくなる。また、**行政側からのリアルタイム**なフィードバックも可能。

3. 継続的な対話の場を提供

- イベントだけでなく、日常的に意見を交換できるプラットフォームを構築することで、学生の声を行政施策に反映しやすくなる。

4. 多様な意見を可視化

- オンライン上で意見を集約し、データとして分析することで、学生全体のニーズや課題を把握しやすくなる。

5. 地域や社会への関心を高める

- 気軽に参加できる環境が整うことで、これまで関心が薄かった学生も地域や社会の問題に関わるきっかけとなる。

〈PedalShareコミュニティサービスが便利な事例〉

- ・ 登下校で事故が起きそうな場所を学生同士で共有、同時に行政機関に報告・フリーマーケットや食事会などローカルイベントの発信・公共施設の開発やデザインなどの意見を対象の学生にアンケートを実施

ポイント

移動にかかる時間・運賃の負担の軽減

地方では、公共交通機関の運賃が都会に比べて高い傾向にある。運行本数も少ないうえに運賃が高ければ、利用者数は自然と減少し、さらに運賃が値上げされると負のサイクルが生まれてしまう。徳島県の行政機関も、鉄道とバスを組み合わせることで目的地まで移動できる路線の整備に取り組んでいるが、現状には追いついておらず、課題を完全にカバーするには至っていない。そこでバスの代わりに自転車を自動車と繋げることで学生の足をつくる。

移動手段	所要時間（往復）	費用（往復）
バス	40分	900円
鉄道 + PedalShare	21分（鉄道8分 + 自転車13分）	560円

右の表は徳島駅からゆめタウン藍住店までの所要時間と費用の比較をした表だ。バスだけで行く場合に比べて鉄道とPedalShareサービスを通して自転車を使うことで移動時間を**20分短縮**、**340円節約**可能だ。



経済効果の予想

1. 地域経済の消費促進

- $2,000人 \times 4回/月 \times 1,000円 \times 12ヶ月 = 9,600万円$
- 自転車利用により、年間約9,600万円の消費が地域にもたらされる

2. JR利用者数の増加による赤字改善

- 現在のJR利用者数を仮に10万人/年とすると、10%増加で1万人の増加
- 1人あたりの平均運賃を500円と仮定すると、年間収益増加額は： $1万人 \times 500円 = 500万円$

3. 観光業への波及効果

- 学生が観光地を訪れることで、家族や友人も一緒に訪れる可能性があり、さらに消費額が増加する

4. クーポン利用による消費増加

- クーポン利用者が20%増加すると仮定すると、年間消費額はさらに1,920万円増加
 $9,600万円 \times 20\% = 1,920万円$

仮定条件

①対象地域: 徳島県 ②対象者: 高校生（約2万人）③自転車利用者数: 高校生のうち、10%が自転車を利用すると仮定（2,000人）④利用頻度: 1人あたり月に4回自転車を利用（往復2回の外出）⑤消費額: 1回の外出あたりの平均消費額を1,000円と仮定 ⑥JR利用増加率: 自転車利用により、JRの利用者が10%増加すると仮定 ⑦赤字路線の改善: 利用者増加により、赤字路線の収益が5%改善すると仮定

1. 低コストで持続可能な仕組み

- アプリとハードウェアのシステムを最初に開発することで、他のレンタサイクルサービスとは異なり、自転車の管理費や人件費といったランニングコストを大幅に削減できる。これにより、継続的にサービスを提供することが可能になる。

2. 行政やJRとの連携による持続的な運営

- 行政やJRと協力してサービスを展開し、システムや仕組みを世代交代しても継続できるよう設計する。これにより、長期的な持続可能性を確保する。

3. 地域愛を育み、持続可能な社会を実現

- 学生が自転車を活用して地域を探索することで、地元への愛着が生まれる。将来的には、子どもを徳島県で育てたいと思う若者が増え、地元に戻ってくる人が増加する。これにより、地域活性化が進み、持続可能な社会が実現。

4. 公共交通機関の持続可能性向上

- 自転車を活用することで、最寄り駅から目的地までの移動が容易になり、鉄道を利用する学生が増加する。これにより、公共交通機関の利用者が増え、持続可能性が高まる。

付記（任意）

- キリン福祉財団や株式会社5Mをはじめ、私たちの事業内容に共感いただける企業との連携を積極的に進めている。これにより、資金面やノウハウ面での支援を受けながら、事業の拡大を目指す
- 同志社大学の理系研究室と協力し、ソフトウェアやハードウェアの研究開発を進めている。専門的な知見を活かすことで、高品質で持続可能なシステムの構築を目指す
- 徳島県だけでなく、今後は同じような課題を抱える他の地方への展開も視野に入れている。そのため、同じ志を持つ学生を集め、組織の拡大とネットワークの構築を進めている



団体名
特定非営利活動法人Colors



ホームページ
<https://colors-npo.studio.site/>



関連団体
公益財団法人 キリン福祉財団
株式会社 5 M

【思い】

NPO法人Colorsは、高等学校の授業「自分たちに身近な社会問題を発見し、その解決策を考える」で学生の交通手段に関する課題を取り上げたことをきっかけに設立されました。授業内で発表されたビジネスプランは大きな反響を呼び、学生主体の法人として地域社会に貢献する形で実現を目指しています。

徳島県では、多くの若者が高校卒業時に自動車免許を取得し、車での移動が一般的です。しかし、学生時代に感じた交通の不便さは大人になると忘れられがちで、具体的な解決策が講じられてきませんでした。この現状は、学生の行動範囲や可能性を制限する「地域格差」の一因となっています。また、学生と企業、行政をつなぐ仕組みもほとんど存在せず、学生の声が社会に反映されにくい状況です。

私たちは、学生の声を活かし、持続可能な未来を創ることが地域社会の未来を形作る重要なステップだと考えています。学生が「住み続けたい」と感じる地域にするためには、交通手段の問題を解決し、学生の意見を社会に届ける必要があります。NPO法人Colorsは、学生と地域社会をつなぐ架け橋となり、交通手段の改善を通じて学生の可能性を広げ、誰もが住み続けたいと思える徳島の未来を共に築いていきます。